

原発事故1年9ヵ月を小出裕章さんに聞く

「わかりません。人類が経験した“初めての事”なのです」

12/1 愛川欽也パックイン・ニュース（内容書き出し）

via パックイン・ニュース kinkin.tv (20121201)

愛川欽也

ゲスト・小出裕章（京都大学原子炉実験所助教）

山田 厚史（ジャーナリスト）

樋口 恵子（評論家）

内田 誠（ジャーナリスト）

升味佐江子（弁護士）

横尾 和博（社会評論家）

（※音声からの文字起こしですので、お名前が分からない所があります。）

愛川：ちょうど1年9ヵ月前に福島第一原発の爆発がありました。この福島の第一原発が、ぶっ壊れたまんま今もあります。そのなかで、東京電力さんという所が当時の福島と福島第一原発のやりとりの中の、つまり残っていたVTRですね、それを小出しに少しずつ出していきましたら、なんと昨日また新たな発見がありまして、発見というかも前から決まっていたんだろうけれども、その時の非常に濃度の高い放射能を海に捨ててたというのを今頃になって出して、つまり原発というのはこんなふうにして、1年9ヵ月経ってまだなんかこういう事を教えなくていいでくれた。

しかも大事なことが、発表されていくという遺産を残して、まだ今日もぼんやりと立っています。そこがこの番組はずっとやってきたんで、とうとうやめないでずーっと、去年の3月11日以降一回も欠かさずこの原発については語ろうじゃないかと言って語ってきました。

原宿でやっているころですね、朝日ニュースターでやっている頃、小出さんにも出ていただきました。その小出さんが、小出さんはあちこちでいろんなお話をして講演をやったりして、お忙しいんだろうけれども、今日羽田に着く飛行機が少し早目だったんでこっちに寄っていただいたんで、今日はスタジオにきてもらいました。で、ま、小出さんがもう座っていらっしゃいます。小出先生よろしく願いいたします。

小出：よろしく願いいたします。

愛川：小出先生とは、今日まさに当時のまんまで、これは1年9ヵ月前の3月20日。ですから10日ぐらいしか経っていない、その時の写真をそのまま映しています。今日は小出さんに学者さんですから、小出さんに原子力の話を絡めて、これはとつても、この程度で「もう収束した」って言うっちゃう人もいますよね。僕ら素人が見ても、建物見たって、これは収束には見えない。収束と同

時に何か知らないけれどもだんだん風化してきて、この後あんまり原発という事に関して何も言わなかった。ただど実は小出さんに、いろいろお話を聞いてね、これ、僕はとても収束していると思えるわけがない。で、安全だったら、普通、ね、みっともないから壊しますよ、これ。で必ず次のマンションが建ったりね、あるいは旅館が建ったり、海水浴場にふわさしいんじゃないかと、なんか、あちこち壊れながらいるんですけど、最初に小出さんに聞きたい。これは収束していますか？

小出：していません。

愛川：僕が言うんだと皆さん信用しないんで、小出さんがおっしゃるんだから。みなさん、収束していませんよ。つまりね、これを最初の話として、1、2、3、4個あるんですね。で、メルトダウンという言葉、僕は生れてこの方知らなかったけれども、3月11日以降知りました。最初に後藤さんなんかにも来ていただいて、その頃は後藤さんも気をつけながらね、「これ、メルトダウンって今は言えないかもしれないけれど、もしメルトダウンだったら大変だよ」とおっしゃっていました。これメルトダウンですよ？

小出：もちろんです。

愛川：ですからね、こうやって僕らはいろんな事で嘘をつかれながらね、あるいは本当の事を知らずに、こんな危ないものを、こうやっているのをね、塀をつくってちょっと隠してみたりね、こんなもの、ブルーシートかなんかかけて隠しておいていいんですか？ これ。

小出：今、映っているのは左から2号機3号機4号機です。で、もうひとつ左に1号機があるのですが、1号機と2号機と3号機は事故の時に運転中でした。大雑把に言うと、それぞれの原子炉の中に、広島原爆がばら撒いた放射性物質の約1,000発分を抱えた状態で事故に突入しました。

それが結局みんな溶けてしまって、今そこに映っている建屋の下に溶け落ちてしまっている。そして、それが今どこにあるか？ すらが分からない。なぜなら近づく事ができないからという。

今愛川さんがこれ全部取っ払ってマンションにしろとかおっしゃったけれども、そんな事もろんでできない。猛烈な放射能が、そこに今でもある。でも、正確な状態でどこにどうやってあるかすらが分からないという、そんな状態なのです。

愛川：で、で、あるにもかかわらずですね、

小出：はい

愛川：カーテンでも隠したい位なものでしょ？

小出：はい。

愛川：しかしこれは、あの、ぼくは広島原爆ドームをね、残そうじゃないかって、アメリカに爆

撃された。そのあと、ちょうどいろいろともっと、昔の話ですけど、残すように運動するのが全国で行われたんですよ。僕らもその募金運動に協力して、あれ残してよかったなって思うんだけど、あれは残したけど、あそこはもう危険じゃない、完全に。これはもう冗談じゃないですか？

小出：これはずーっと手がつけられない状態で、これから何百年という形で、この上に多分、私は石棺という、過去、旧ソ連のチェルノブイリ原子力発電所でやったような、石の棺というものでこれを覆わなければいけないと思いますけれども、それが、一度覆ってもボロボロになりますので、今、チェルノブイリ原子力発電所では、ボロボロになった石棺の上にさらに大きな石棺をつくらうとしています。これも多分、10年、20年経つと、この上に石棺というお墓ができるんだと思います。でもそのお墓もボロボロになっていくので、何十年か経つとその上にまたさらに巨大なお墓で覆うという事が必要になっていく筈です。もう、愛川さんは生きてられないだろうし、私ももちろん生きてない（笑）ですけども、そういう仕事を私たちの子供、孫の世代が、ずーっとこれから引きずっていかなければいけないという事になります。

愛川：今じゃあ、ここに働いている人がいるんですね、事実ね。で、この人達にとかく、こんな大変な仕事をしていて「ご苦労さん」っていうふうなテレビ番組もありますけれど、そこで働いている人って、そんな危ないところに入っていくんで「ご苦労さん」どころじゃないですね。

小出：そうです。ですから原子力発電所の作業員というのは、昔からそうだったのですが、下請け、孫請け、ひ孫請けというような、ものすごく重層的な雇用関係が繋がっていて、本当に危険な現場に行く人は、孫請け、ひ孫請け、なんか10次ぐらいまでその下請けがあるそうですけれど、危険手当までがピンハネされてしまって、貰う事が出来ないような構造になっているようです。

愛川：そんな事して、その人達は核心に触れるようなね、その核の棒のところに行くんじゃないかと、なんかゴミかなんか拾っているわけですか、

小出：もちろんその原子炉建屋という建屋があるのですけれども、一番右の4号機はですね、事故の時に運転していませんでしたので、原子炉そのものがメルトダウンするという事はなかったのです。だから確かに建屋は爆発して吹き飛んでいますけれども、放射能汚染が比較的少ない状態で済んだので、4号機の原子炉建屋の中にはまだ人が入れるのですが、1号機から3号機までは人が立ち入ることすらが出来ないという、それほどの猛烈な汚染なのです。

ですから、周辺で曲がりなりにも少しずつ片付けるという作業をする、あるいは放射能が外に漏れてきているわけですし、空気中にも漏れてきているし、汚染水としても漏れてきているわけで、それを何とか、とにかく食い止めなければいけないという作業がずーっと続いています。

愛川：そんな事をこうやって、そんな危険なところで働いて、こうやっている事で食い止められるんですか？ こんな危ないものが。

小出：わかりません。人類が経験した、「初めての事」なのです。こんなことは…チェルノブイリ原子力発電所の時だって、壊れたのはたった1個だったわけですけども、福島の場合は4個が、

並んで全部つぶれてしまっているという、そういう状況になっていますので、これをこれからどうやって収束できるのか？何年かかるのか？ ということは、人間にとって未知の経験ですので、どうなるか、正確に予測する事もできません。

〇〇：小出さん、先程ね、石棺は、10年か20年経ったらこの上に石棺みたいなものができるだろうと、おっしゃいましたよね。やっぱり、10年20年経たないとそういう作業には取り掛かれないということ何ですか？

小出：というのは…核燃料が存在していた場所というのは、2カ所ある。1箇所は原子炉そのものの炉心という所にあった。それが1号機2号機3号機で溶け落ちてしまっているわけですね。でも溶け落ちてしまったものはもう、どうなっているのか？ すらがわからない状態で、それに手をつけられるようになるためには、多分10年20年後にならないと手をつけられないと思います。

〇〇：どういうふうにすると、手をつけられるようになるんですか？

小出：それはまずわかりません。でもその前にやらなければいけない事があって、それは核燃料が炉心という所ではなくて、使用済み燃料プールという中にも膨大な核燃料が沈めてあった。1号機も2号機も3号機も。また4号機もそうですけれども、それは使用済みという言葉で言われるように、すでにもう、原子炉の中で燃え尽きてしまった、つまり猛烈な放射能の塊になったというのが、使用済み燃料プールというものの中に沈んでいるんです。今でも。それをとにかく取り出さない事には、そのまま石棺で封じる事は出来ないわけで、まずは取り出すと。

〇〇：取り出すというのはメルトダウンしてグチャグチャになってしまったような部分を取り出すんじゃなくて、使用済み燃料を取り出すという事なんですか？

小出：そうです、今はプールの底に、溶け落ちてはいない状態でまだ残っている使用済み燃料というものを、少しでも安全な場所に移さなければいけないという事になっているのです。でもその使用済み燃料プールというのは真ん中に3号機がありますし、右に4号機がありますけれども、吹き飛んでしまった建屋の要するに、中にあるわけですね。で、その使用済み燃料というのは今聞いていただいたように猛烈な放射能のかたまりですので、プールの底に沈んでいる間はまだいいのですけれども、それを水面から引き上がると周りにいる人がバタバタと死んでしまうというほどの猛烈な

〇〇：そんな…あ、…なるほど…

小出：ものなのです。ですからどうすれば移動できるのか？ というと、プールの底に、まずは巨大な鋼鉄と鉛でつくったキャスクという容器を沈めるのです。プールのそこで、水の中でその使用済み燃料を容器の中に入れて蓋をして、初めてプールから外へ引き出せるということになるのですが、そのキャスクというものは重さが100トンもあるというような猛烈に重たいものなのです。でも、見ていただいてわかって頂けるとは思います、建屋そのものがもうボロボロになってしまっているわけで、クレーンもなにもみんな吹き飛んでしまって使えないのです。ですからその作業を

するためには、とにかくクレーンが設置できるようにしなければいけないし、巨大なクレーンを設置するためには強固な建物をつくらなければいけないという仕事があるのです。

今、4号機は、この写真では事故後の直後のものですが、今はすでに最上階のところを全部取っ払ってしまっています。壊れた建物を取っ払って、新たにそこに巨大な建物を建てて、巨大なクレーンを設置して、そして初めて使用済み燃料を吊り出すという作業が始められるということになっているのですが、「その作業が始められるまでに来年の12月までかかります」というのが東京電力の説明です。

そして、今聞いていただいたように4号機は比較的放射能の汚染が少ないので、その作業が今、出来ているのですが、3号機なんて、あんなふうに壊れてしまって、「いつその作業に取りかかるか」すらが分からない、という状態なんです。

愛川：小出さん、その使用済みの燃料そのものはかえって危険なものなんですね。

小出：猛烈に危険なものです。

愛川：現在使っているものよりももっと危険になっちゃっている？

小出：原子炉の中で燃やす時の燃料は、はじめは新燃料という、ま、ピカピカのウランだけのものなんですけれども、それを原子炉の中で一度燃やす、核分裂させるという事になると、ウランが持っていた放射能の1億倍の放射能を抱えるようになるのです。

愛川：1億倍…はあ…

小出：1億倍。ようするに、燃え始めてだんだん、だんだんその使用済みになるまでに、1億倍の放射能になっちゃうんです。ですから、燃やし始めのうちはまだいいけれども、1年、2年燃やしていくと、どんどん毒性が高くなってきて、使用済みとなった状態が一番放射能の汚染が強いものになるわけで

愛川：じゃ、それをまだ抱えたまんま、この4基ともいるわけですね。

小出：そうです1号機から4号機までの使用済み燃料プールの中に、沈んだ状態で、まだなんとか、

愛川：そ、それは何本ぐらい入っているんですか？一つのプールに。

小出：4号機だけで1,535本

愛川：ええっ！ 1,500本

小出：原子炉の中には500数十体しか入りませんから、原子炉の中に本来入る量の2.5倍分ぐらいのものが4号機の使用済み燃料プールという物の底に今でも沈んでいるということです。

愛川：で、もうちょっと、先生に頂いているお時間がありますから早口になって申し訳ないんだけど、これが、こんなになっているけど、これがあれですよ、3月11日の後の10日後ぐらいの写真なんだそうですけど、そうするとこれ、上を取っちゃって、取れるぐらいだから逆に言うと小出さんのお話を聞くと、これ（4号機）がまだこの中じゃ安全な方だと見てもいいような

小出：違います。それは全く違って、3号機と4号機がいま写真に写っていますが、3号機は骨組みすらが崩れ落ちてしまっているというのが見ていただけるとおもいますが、でも重要な事はですね、3号機で吹き飛んだところは、こうやって写真で見ると、最上階の2階建てに見えるところが吹き飛んでいるんです。4号機の場合は2階建てのところも吹き飛んでいますし、さらにその下の階もすでに吹き飛んでしまっていて、最上階の2階建てに見える部分は私たちがオペレーションフロアと呼んでいるところで、クレーンとか、使用済み燃料交換機とか、大きなものがある体育館のような部屋なんですけれども、その下に使用済み燃料プールが埋め込まれている。で、4号機の場合にはつまり使用済み燃料プールが埋め込まれている階が全て吹き飛んで壁が無くなってしまっているという事で、使用済み燃料プールが、それを支えている構造体がすべて破壊されてしまって、宙づりのような状態で、いまあるんです。

〇〇：そこにもし地震が来たら、福島と同じような地震が、大きな余震がきたりいろんな事がありますけれども、そういうのが来たらいちばんやっぱり危ないというのが4号機

小出：そうです。私たちは一番それをやっぱり恐れているわけで、4号機は原子炉建屋が特殊な形で破壊されてしまって、使用済み燃料プールがいま一番危ない状態だということに、私も気がついたし、東京電力も政府も気がついたのです。事故直後に東京電力はすぐに使用済み燃料プールの耐震補強工事というのをやりました。

その下の階に入っていくと、プールのコンクリートの底が見えるのですけれども、その底に鋼鉄製の柱を何本も設置して、コンクリートで固めるというような事をやったのですが、もともと放射能で汚れた現場で、ゆっくりと作業ができるという現場ではありませんでしたから、どこまで工事が出来たかという事も不安ですし、その鋼鉄の柱を建てられる場所というのも、すでに下の、支えようとするその下の階すらが破壊されているのですから、全部に柱を建てる事もできない。

ようやくにして半分ぐらいのところに柱を立てて、支えているという状態なのです。で、東京電力は「それをやったから大丈夫だ」と、「少しぐらいの地震がきても大丈夫だ」というのが東京電力の主張ですけれども、「本当にそうかな？」というのが私には不安ですし、その4号機の使用済み燃料プールの中には、広島原爆がばら撒いた核分裂生成物。その中でも私はセシウム137という放射性物質が一番危険だと思っているのですが、そのセシウム137を尺度にすると、約5,000発分が、そこにある。

〇〇：広島原爆の5,000発分。4号機だけの燃料プールだけで。

小出：そうです。その宙づりになっているプールの底だけでそれだけある。何とかそれを早くしなければいけないという事で、東京電力がとにかく今それをやろうとして苦闘しているところです。

樋口：先生、その後始末のために順調に行ってどの位まだ時間がかかりますか？

小出：先ず4号機の使用済み燃料プールから使用済みの燃料を吊り出す作業が始められるまでに1年かかると言っているわけですね、来年12月。その作業が始まって、1,535体ある燃料の吊りだしを終えるまでに、多分、1年とか2年とか、私はかかるのではないかと思います。それから3号機の使用済み燃料プール、2号機の使用済み燃料プール、1号機の使用済み燃料プールからも、また全部を出さなければいけない。

樋口：じゃあ10年かかりますね

愛川：小出先生のお話を聞いていると、良くこの頃ね、選挙ももうすぐ始まりますが、なんか、ちゃんと原子力安全委員会みたいところが大丈夫って言って、やるだけの事をやって安全性が確保できたら、「確保できる」って言っちゃうんですからね、政治家ってひとは。そしたら、「それは運転してもいいんじゃないか」っていう事を言っていますね。小出先生から見て、これは福島で、ここはもう完全に使い物にならないけど、あと51基ぐらい。今2基しか動いていないんですけどもね、これも強引に動かしたようですけれども、これでその他は今止まっているんですけども、動かしたいらしいんですよ。そういった時にその人たちが、「まずまずの安全性を確認した」という事を言うらしいんですけど、こういう話を聞いてて、小出さんが原子力の学者として見てらして、どう思いますか？

小出：この福島の原子力発電所も、彼らは「安全性を確認した」と言って動かしたのです。東京電力は「安全だ」と言ったし、国も東京電力の主張を調べて「ちゃんと安全性を確認した」と言って許可を出した原子炉が、今こういう状態になっているのです。

それと、そういう許可を出した人達と同じ人たち。私は原子カムラと呼んできましたけれども、そのムラというものが全く無傷のまま生き延びていまして、組織はだいぶ名前が変わったりして今は原子力規制庁、原子力規制委員会とかになっていますけれども、やっている人はみんな一緒なんです。その人たちがまた「安全性を確認して動かす」というような事を言っているのですけれども、「みなさん、ちゃんと事実を見て下さい」と、私はまずはお願いしたいと思います。

〇〇：でも、先程の使用済み燃料の問題なんですけれども、たとえば4号機というのは今非常に不安定な状況で、「柱がついて大丈夫だ」と言っているけれども、グラッと来たら分からないですよ。で、ちょうど3.11の後、年末かなんかにディスクローズされたんですけども、あの時に「一番大変なことが起こるようだったら、首都圏の3~4,000万人がみんな避難しなければいけない状況があったんだ」という事が、12月ごろになって表に出てきたんですけどもね、今はもう「そういう状況になるという事は絶対にない」ような安全になっているんですか、これ。さっき伺ったらもう、ガラガラと使用済み燃料が落ちこっちゃったらですね、そうとうな事が起きるんじゃないかと

思うんですけど、その辺はどうなんでしょうか？

小出：もちろん起きるのです。ですから去年の事故の直後に原子力を進めてきた人たちも4号機の使用済み燃料プールが倒壊するような事になったら大変だという事に気がついて、すぐに評価をしているのですね。

原子力委員会の近藤駿介さんという委員長を中心として評価をして、もし4号機の使用済み燃料プールが倒壊するような事になれば、燃料がまたそこで溶けて、膨大な放射性物質が噴出してきて、東京も含めて、もう避難をせざるをえなくなるという、そういう報告を彼らが作ったのです。その状況は今でも全く変わっていませんので、もしそこにある使用済み燃料プールが、今でも毎日あるような余震で、次に大きな余震が来て崩れ落ちるようなことになれば、もちろんその可能性はあるのです。

ただし、「運」なのです。要するに放射能が噴出してしまえばあとは風に乗って流れるだけなのであって、風が太平洋に向かって流れてくれれば東京は助かるかもしれないし、北風が吹いていれば東京がやられるという事になります。

樋口：風に乗って流れて行って、実は原発の恩恵なんか何にも受けてなかった福島県の飯館村なんていう所が、ほとんど全村帰れないような状況でいますね。あれ、いったいいつになったら…本当に「帰れる」と思ってみんな希望を持っていいんでしょうか？

小出：帰れません。

樋口：帰れませんですか。

小出：今、日本の政府、あるいは原子力をこれまで進めてきた人、そしてこれからも進めようとしている人達は、「除染をすれば帰れる」というような事を言って、人々に幻想を持たせているのですが、飯館村を含めて猛烈な汚染を今しています。

日本は法治国家と言われてきましたが、その法治国家である日本がもし、自分が作った法律を守ろうとするのであれば、「放射線の管理区域」という所に指定して、私のようなごくごく特殊な人しか入ってはいけない。でもその私のような特殊な人間が入っても、「水すら飲んではいけない」という、そういう場所に指定しなければいけない汚染、その10倍汚染しているんです。飯館村などは。到底帰れないと私は思いますし、大変お気の毒で、私は言うのも辛いですが、やはり「帰れない」という事をしっかりと国として伝えて、早く飯館村が再建できる、その場所ではない、残念ながらその場所ではないけれども、コミュニティーごとどこかに移動して、そこに新たな飯館村をつくるという、そういう作業を早く始めるべきだと私は思います。

愛川：このね、そんなに危険な原発がまだあちこちにあってで、おっしゃったように風の吹くままで、風が太平洋に向かって吹けば大丈夫だっていうような、偶然の、なんか事を頼りに、原発を

あちこちでこれから動かしていくと、その今の原子力が、規制委員会がOKとしたならばという事を言っているし、私たちの頭の中でも「とりあえず俺のところは大丈夫だ」という事を言ってるんですね。こういう事を言っている人たちに対して、やっぱり、小出さんは、とんでもない奴だと思いませんか？

小出：もちろん思います。どこか町の小さな工場が、たとえば事故を超して毒物をどこかに流したというようなことになれば、すぐに警察が踏み込んで、そこの人達を逮捕して、刑事罰でも何でも加えると私は思いますけれども、今はこの福島事故が起きて、モーレツな放射能が東北地方、関東地方の広大なところに降り注いで、人々を苦しめている。それでも誰も処罰されないのですね。東京電力の会長、社長、これまで原子力を進めてきた原子力委員会、原子力安全委員会、政府の人達、誰一人として処罰もされないと。大変私は「不思議なことだ」とそれだけでも思いますし、その人たちがいまだに原子力の実権を握っていて、相変わらず「安全性を確認したら動かします」というような事を言っているわけで、私の常識から言えば到底信じられない事が起きています。

内田：ちょっと戻るようで申しわけない、二つお聞きしたいんですけど、4号機の使用済み燃料プールがもし崩壊した場合ですね、1号機から3号機というのは今、注水循環冷却なるもので、溶けたメルトダウンしたものを冷やして水をまた回収するという事をやっていますよね。これがいったいどうなるか？ っていうことと、それからもうひとつはさっき石棺というふうにおっしゃいましたけれど、石棺をつくるという方針ではないですよ、今のところ。それから地下ダムの問題もあって、実際抑えるという事がいまの日本政府は正しい方向に向かっているのか？ という事についていかがですか？

小出：4号機の使用済み燃料プールが倒壊した時に、実際どういう事が起きるか？ という事は、なかなか正確に予測できないのです。でも本当にその使用済み燃料の中に含まれている放射性物質が全量出てくるような事になれば、もちろんもう、福島原発の中に、敷地の中に人がとどまることはできませんから、もう全員が撤退すると。つまり1号機から3号機で今事故収束というか、なんとか放射能が出てくることを食い止めようとしている作業すらをすべて放棄するしかないと思います。そうなればもう、放射能が出るに任せるということになってしまうと思います。

それから石棺のことは、現在政府、あるいは東京電力が描いているやり方というのは、私は先程「石棺をつくるだろう」と言ったのはちょっと違うのです。そのやり方というのは、まずは使用済み燃料プールの中の使用済み燃料はとにかく安全な場所に移そうというのは、私と一緒にです。多分、そのために10年あるいは20年かかると私は思います。そのあとで彼らは、「溶け落ちてしまった炉心をまた掘り出したい」と言っているのです。でも私は多分それはできないと思います。それをやろうとすると猛烈なまた被ばくになってしまいますし、多分出来ない。で、出来ない以上は私は石棺をつくるしかない、思っているわけですし、いま内田さんがおっしゃって下さったように地下に遮水壁というものを張り巡らせて、地下水と接触しないような事もやらなければならないと思います。でも政府の方はそうではなくて、とにかく全部掘り出すというのが政府の計画で、それをもし、本当にやることになれば20年、30年あるいは40年、もっと長い時間が結局かかっていくだろうと思います。

愛川：その掴み出して、小出さんは今「どこか安全なところにそれを」って、その安全なところってどこですか？

小出：ないんですね、それが。少なくとも、でも、その使用済み燃料プール4号機のは、もう建物地震が崩れようとしているのですから、まずそこからは出さなくてはいけないということになっているのです。手前の右下の方にあるのが共用の使用済み燃料プールという建屋なんです、そこにはまだ、建屋自身倒壊していないし、まだ少し健全な形のプールがありますので、そこに多分、まずは移すことになると思います。でも、最終的にこれから何十年何百年毒性が消えるまでに100万年という毒物ですので、本当にどうする事が安全なのか？それすらが分からないということですよ。

愛川：よく言うのがね、日本はこうやって、じゃあ止めてもいいけれど、よその国はどんどん造っているじゃないかと、そういう事なんだからこっちも造っていないというような事を言う人達は、そこに一体安全の根拠はどこへ行っちゃったのかと、僕なんかは見ています。ただ普通の人は「そういう事なんだよね」で、そこで終わっちゃうんですね。そういう所で終わっちゃうという事で、小出さんから見て、やっぱり僕らはメディアから教わるわけですね。こういうこと言っちゃなんだけど、日本の新聞とテレビとか見ていて、イライラしませんか？

小出：(笑)

愛川：ごめんなさいね。

小出：大変イライラします。

愛川：あのね、僕もつくづく思うんですよ。我々の知恵なんて本当にタカが知れているんで、小出さんにお話を聞いて、もう…ですから1年ぐらいですかね、前に来てもらって、その時から小出さんは、その前に来た時も大体同じ様な話を聞かせてもらったんだけど、つまりこれをどういうふうにして私たちは、これをなくすには、ま、毎週金曜日には首相官邸の周りをね、大勢の人達が行進をして、意思表示はしているけれども、最近は新聞には写真も載らなくなっちゃったけれど、そういうのが実際にしかし本当の怖いんだぞっていうことを、今まで安全で安くて怖くなくて、プルサーマルなんてもう一回使えるって、何時までの使える燃料だなんて滅多にないよという事で騙され続けた私たちが、この…目を覚ますには、小出さんはそういう仕事をしていらっしやらないんだけど、どうしたらいいと思いますかね？ しょっちゅう小出さんにきてもらわなければならないかな。

小出：私はもちろん原子力の専門家として、自分の知り得た事をみなさんにお伝えするというのが私の仕事だと思っていますので、今日もこうやって愛川さんに呼んでいただいて大変ありがたい事だと思っています。ただし、日本の報道全体で言えば、この場所が非常に特殊なのであって、ジャーナリズム全体はこれまでも国家、あるいは経済界、大きな企業と一体になって、原子力を進めるという事もやってきたわけですし、原子力の持っている危険性なんていうものは一切報道しない。大丈夫なんだ、いいもんだということではしかなかったんで、私は大変これまでもイライラするというか悲しい思いで来ましたし、「これからもきっとそうなんだろうな」と、半ば、半分諦めていま

す。

〇〇：だけど確かにね、「運」次第なんですよ。運が良ければ、本当にうまーく渡っていければ、何もなくて取り出して20年かけて処理出来るかもわかりませんが、そんな保証はないですよ。ガラガラガラときて、4号機のところにある使用済み燃料が下に落ちただけで、もう日本は事実上もう、政治的にもパニックになるのは間違いないでしょうね。

小出：もちろん、そうですね。

〇〇：そういうリスクと僕たちがいま隣合わせで生活しているっていう事じゃないですか。

小出：そうです。いまだにそうであって、事故が収束したわけでも何でも無いという事は、皆さん承知しておいていただかなければいけません。そして仮に「崩れ落ちなかったのならいいのか？」と言え、そうではないのです。崩れ落ちなかったとしても放射能は消えずにそこにある。どこかに移さなければならぬし、それを10万年100万年これから閉じ込め続けなければいけないというようなものを、私たちがずーっと原子力を選択することによってつくってきってしまったということなのです。

〇〇：それは、福島だけじゃなくて、今出ている核のゴミもそうですね。

小出：そうです。

〇〇：また原発から出たゴミも含めて地層処理としても何万年も何十万年というリスクを負わなければいけないということ。

小出：そうです。これまでは原子力の電気が一番安いとか、これをやらなければ経済が立ち行かないとか言いながら、50基を超えるような原子力発電所をつくってきってしまったわけですが、それが今日までに生み出してきた核分裂生成物は、広島原爆がばら撒いた核分裂生成物の120万発分。

愛川：120万発もつくったのか、

小出：それをこれから10万年、100万年、どこかで閉じ込めなければいけないと、享樂的な生活を何十年かしたかもしれませんが、子々孫々ゴミだけを押し付けるという事になる。

愛川：それでね、これはもう地震でぶっ壊れちゃったんだけど、そうじゃない奴でも、原子炉というもうつくっちゃったやつはね、現にもうスタンバイしているわけです。もう早く動かしたくてうずうずしている人たちがいっぱい居るんですね。動かしたとして、普通にね、地震も無くて、風もそよがないで、寿命っていうのもあるでしょ？

小出：もちろんあります。

愛川：それはどのくらい？

小出：40年だと思ってきたんですね。ただ、要するに人類が経験した事のない機械を今動かしているわけで、本当に何年持つか？ は分からなかった。とりあえず40年だろうと思ってやってきたわけですが、たとえば敦賀とか美浜という原子力発電所は、すでにもう、42年経っているわけですね。機械として動きそうだから、まだこれから10年、20年動かし続けたいという事で、これまでできていたのです。で、福島事故が起きて、やはりそれはまずいだろうという事で「40年を限度にしよう」という案も出てはきていますけれども、でも特例として、またさらに10年、20年の運転を認めてもいいというような事まで、もうすでに言われているわけですから、寿命はもっと長くされてしまう事もあると思います。

愛川：ただ、原子炉ってのは、その、僕らが便利になっちゃっている車だとか自動車だとかなんだとかは、事故があって、その事故がって、綺麗に片付いて、犠牲者は出ますけど、そこで終わるんですね、一応。コイツばかりは終わりがいいですね、これは。

小出：そうです。これはもう事故でたまたまこんな形になってしまっていて、これから何10年何100年苦闘が続くのか、私にはわかりませんが、事故を起こさなかったとしても、もう放射能まみれになってしまった原子炉がそこに残ってしまう。

愛川：なにも言えなくなっちゃうね。

〇〇：原子炉の問題って、なんか経済性とかですね、安全保障とかそういう事で語られているんですけど、倫理的にやっぱり、相当問題な、やっぱり装置ですよ。

小出：もちろん、安全性に問題があるからこそ原子力発電所だけは東京に建てなかったんですね。石原さんが「東京に建てる」とおっしゃっているけれども、是非建てて欲しいと私は思います。

愛川：本当ですね、だから私たちはやっぱりもう一回、こんなにね、なんか、熱しやすく冷めやすい日本人ってよく言われますけど、この原発だけはね、とんでもないものをみなさんが作っちゃった。造っちゃったんで、出来上がっちゃったものを、もう、本当の上手にあれしなかったら、これ大変ですね、本当にね。

小出：私たちの世代が、原子力なんていうものを作ってしまったわけですから、私たちの世代でなんとでも印籠を渡したいと私は思います。

愛川：わかりました。また一つ小出さん出てきて下さいね、今日はどうもありがとうございました。

kinkin.tv 入会はこちら ↓
<http://kinkin.tv/index.html>